**にいがた協同ネット２０２1年度　第１回運営委員会議事録**

1. **開催日時：2021年4月26日（月）15：00～17：00**
2. **開催会場：新潟市西区　ささえあい生協会議室（Web会議）**
3. **参加者：別紙、参加者名簿の通り**

　　高見副代表が座長を務め、渡邊共同代表より202１にいがた協同集会は多くの参加者があり内容的にも評価できた。また、協同労働の学びの場として新潟大学内に協同労働に関わる講座を確保すべく取り組んでいる趣旨の挨拶の後、開会した。

1. **議事**

**１．202１にいがた協同集会の開催状況について**

　　　　　　事務局より、当日の参加者状況、アンケートの内容について概略報告の後、参加者より感想を求めた。

　　（１）参加者の主な感想

・web対応がスムースであった。対談の講師である齋藤幸平氏の看板効果があったほか、永戸氏の参加により集会の評価が高まった。一方で、にいがた協同ネットとして活動の持つ意味は何なのか、集会の成果を出せるように今後の活動が重要だ。

・4/25付の労協新聞に集会の集約が出ている。

・参加者全員の顔が見えなかった、永戸氏が齋藤氏を仕掛けている対談の内容が面白かったが時間が足りなかった。「格差と貧困は作られたもの」が印象に残った。

・170名の参加は良かった、永戸氏が新潟まで来てくれたし対談も分かり易かった。3名の報告者に対する質問があってもよかった、議員も多く参加しており資料等で報告できないか、また、協同労働の立ち上げ相談あってもよい。

・web参加者が多かったのは成功と言える、質問コーナーがあればベター、バルセロナの話が良かった。

・オンライン集会は熱が伝わりにくい。

・集会で質問の受付が出来なかった、デスカッションしたかったが時間の配分に厳しさがあった。齋藤講師は機会があれば再度の参加も前向き、webであれば平日の日中でも可能でないか、小林一大県議はプラットホームに興味があるようだ。

　　（２）今後の運動の進め方（主な意見）

　　　　・次の集会には子供、生活困窮の分野を取り上げてはどうか。

　　　　・良い仕事交流集会の中で地域課題の解決に労働を組み立てることで生活できる場を作っている。なんでも相談の旗を掲げるなど具体的活動を始めたらどうか。

　　　　・労福協で暮らし何でも相談をやっているが、10/1以降は長岡のみで対応しあとは電話対応となる。パーソナルサポートサービス事業は、長岡を撤退し新潟市、新潟県は継続する。

　　　　・協同ネットは緩やかな団体であり、2021年度は労協法が出来たばかりなので協同労働の課題中心で良いがネットの運動は他にもあると考える。ワーカーズとネットの活動の整理も必要ではないか。

　　　　・全国10か所の協同ネットを協同労働推進ネットにしたい想いがあるが、そもそも非営利協同の集まりであり、つながりを大事に①協同労働推進、②他の協同組合との連携を。

　　　　・自立的なネットワークの主体として、ゆるやかな協同で課題解決するプラットホームの役割を果たす。

　　　　・労福協はNPOとのコラボでやってきたが、ワーカーズが加盟してショックを受けた。ネットワークをどう広げてゆくのか時間をかけて議論したらどうか。

　　　　・緩やかな組織であってほしい、協同労働は大事だし有効な手段でもある。

　　　　・一度棚卸をしてみてはどうか、強み、弱みもでてくる。

　　　　・個々の事業実施に基づくゆるく幅広な情報提供の場であってほしい、提携協からの参加を伺ったらどうか。

　　　　・ワーカーズで出来ないものを検討して欲しい。

　　　　・ネットとして緩やかなつながりで各々が抱えている課題の解決を、協同労働についても大学の中で有効な人材づくりになればと考えている。

　　　　・参加者の期待しているものが違うが、想像力の回復の場として捉えている。2021年度の活動方針は5月の運営委員会において最大公約数で考えればよい。

**２．情報交換**

　　特になし。

**３．その他**

　　次第に掲げた以下の項目は、次回運営委員会で協議することとした。

（１）2020年度活動報告及び収支予算書について

（２）2021年度活動計画及び収支予算書について

以上で会議を終了した。